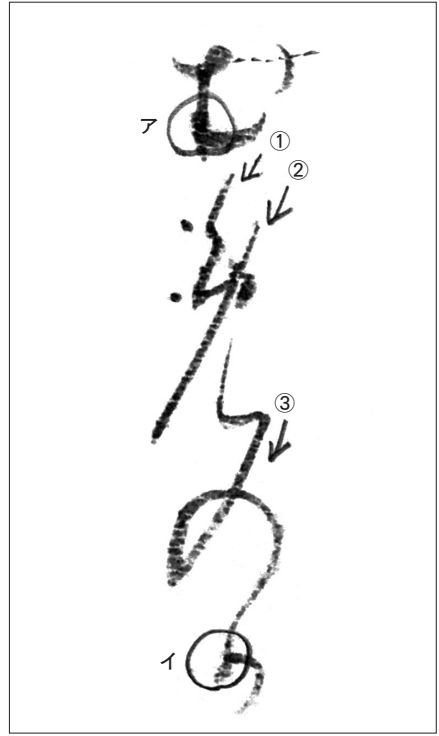


◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

寸松庵色紙



- 1、字句「む免の可」
- 2、形式「半紙をたてに使い、中央に一行で臨書する。落款は、本文に添う大きさを考え「〇〇臨」と入れる。
- 3、概観「今月より寸松庵色紙の臨書が始まります。寸松庵色紙は「継色紙」「升色紙」と並んで『三色紙』と呼ばれます。三色紙はどれをとっても最も完成された散らし書きの構成があり、平安時代の仮名の最高峰に位置付けられています。今回は、寸松庵色紙の臨書を通して、優れた構成を学ぶと共に、構成の基本を成す連綿についても学びます。そして、この学びが、作品作りの栄養になったら本望です。
- 4、各字のポイント
  - む 横画から鋒先を返して縦画に入り、パネのような連筆で結ぶ。(ア) 結びに空間を作らないこと。最終画の高さに注意。
  - 免 「む」最終画から続ける気持ちで入筆し、左下へ。転折部では一たん止まること。左下へ向かう画は(①・②)一定の傾き(ㄷ)で引く。
  - 「免」から「の」への連綿(③)
  - ①・②は強い直線である。それに呼応する「の」への連綿線となるように、強い線を意識して引く。
  - 「の」から「可」への連綿
  - 「の」を完成させてから「可」に入る。
  - 可 筆を返すところ(イ)は、(ア)同様に空間を作らないようにすること。

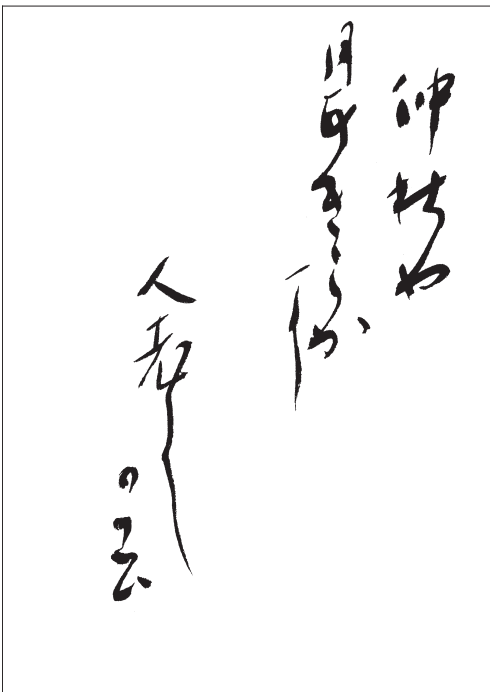
昇試第三部 (漢字・かな) (予告) (九月二十二日締切)

平岡華雪先生書 空庭落葉多し(陸游)



訳：ものさびた庭に落葉が多くなった。

平岡華雪先生書 仲秋や月明に人老し(虚子)



## 新設

### 一字書部門

## 廃止

### 条幅臨書部

高橋 香樹

書誌誌では、平成二十四年に「漢字かな交じりの書」を創設しましたが、今回新たな取り組みとして「一字書」を部門として独立（過去には随意部に取り入れたこともありましたが）しました。

研究部では、すでに「一字書」の課題がありますが、毎年「一字書」は多くの出品を集めています。これは、「一字書」が取り組みやすいことの証左かと思われまます。

一字だからこそ表現できる造形・線質。創造力を働かせて独自の世界を構築して下さい。なお、「一字書」は、昇級試験の月も行なうことになっています。推薦合格者も積極的に出品して下さい。

「一字書」では参考手本は掲載しません。字典で調べ（書体自由）、自由な発想での出品期待しています。

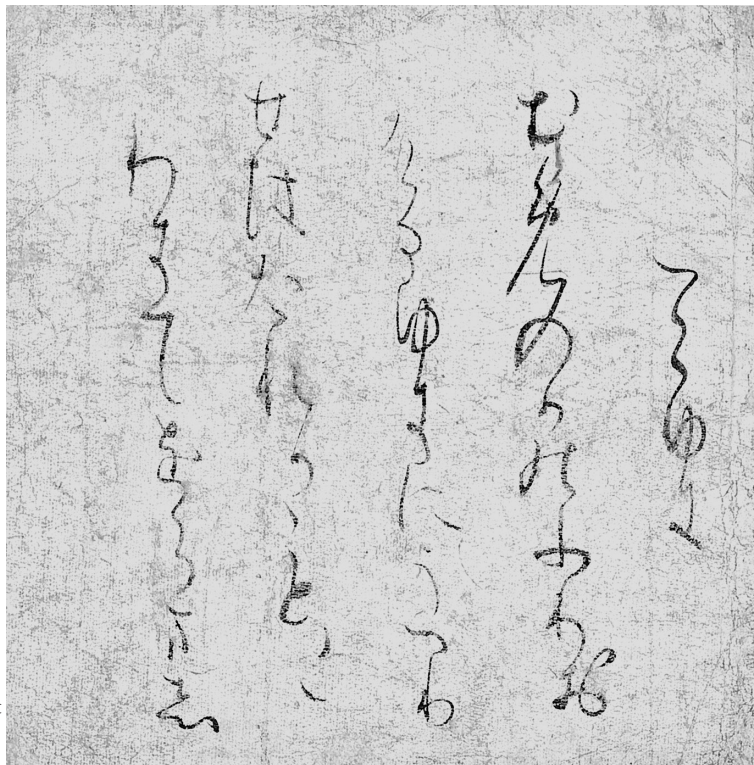
このため条幅臨書部は廃止となりますが、原帖は今まで通り掲載しますので、随意部として半紙や条幅にして出品して下さい。

### 第一回「一字書」課題（八月二十二日締切）

# 書

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円

## 寸松庵色紙



むめ免のか可の能ふり利おける介ゆき文に文うつり利せば可たれ可か可こと可く文わ文きて文を文ら万まし志

MOA美術館蔵

随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。抜粋可。  
 随意部半紙…出品料は無料  
 随意部条幅…出品料は一枚目は無料、二枚目から五四〇円

A

高橋香樹主幹書

心如金石 志似松筠 (關羽)  
心は金石の如く、志は松筠に似たり。



B

鈴木静村書

半切に八字を縦一行というのは仲々難しい。半切十四字二行でも一行八字が平均的な字数を考えると困難さがわかる。小字と横に広がる字をうまく組み合わせなければならぬ。「心石志松」を小さめに、「如金似筠」を横に広げて書いてみた。墨継ぎは「似」。書体は行書に統一。



心の三・四画を弾ませて如へ連綿、連綿線は細くても、切れても可。字幅をとって旁へ。金 右払いが大きく払う。垂、やや左へ寄せ、傾きで動きを表わす。石 口でキリッと締める。志 墨継ぎ。似の第一画に連綿、二画目は突き出し短かく。旁は離して字幅。松 全体小さめ。筠 長円形で、末画二点で締める。落款は硬くならないように。

予告 昇試第一部漢字(九月二十二日締切)

溪畔印沙多鶴跡

檻前題竹有僧名(李山甫)

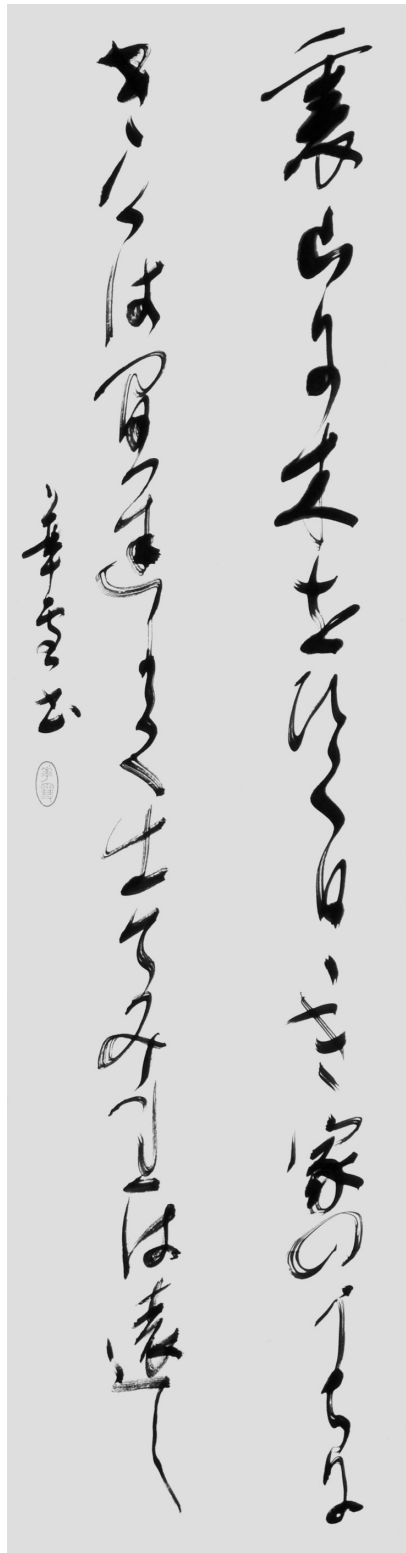
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

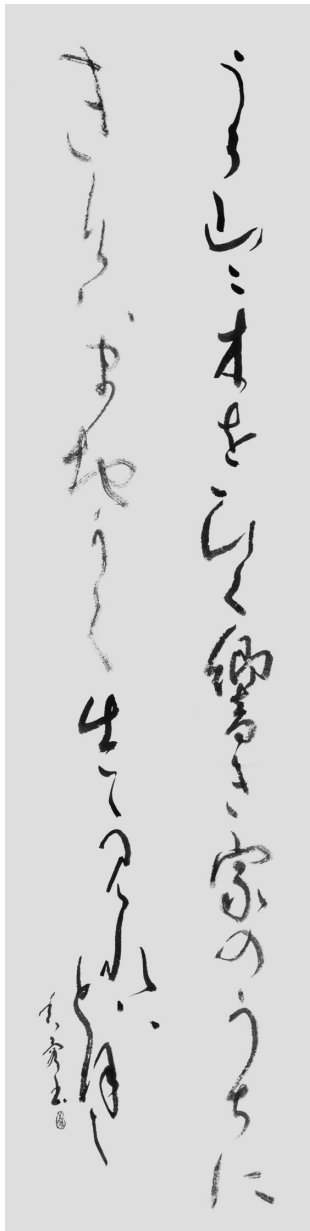
裏山に木を挽くひびき家のうちに聞けば間近く出て見れば遠し(島木赤彦)  
裏山<sup>に</sup>木をひく<sup>ひび</sup>き家のうち<sup>に</sup>聞<sup>け</sup>ば間<sup>ま</sup>近く<sup>か</sup>出て見<sup>れ</sup>ば遠<sup>し</sup>



B

川上香蓉先生書

うら山<sup>に</sup>二木<sup>に</sup>をひく<sup>ひび</sup>き家のうち<sup>に</sup>き介<sup>け</sup>八末<sup>ま</sup>地<sup>か</sup>可久<sup>く</sup>出て見<sup>れ</sup>八<sup>は</sup>と保<sup>は</sup>し



学び方

近代の歌人の作なのでなるべく変体が少なくしわかりやすい字を使って書いてみました。最初は「うら」と仮名で入り、少し間をとって「木をひく響き家のうちに」と殆ど連綿を使わないで、うるさくなりがちな線を省きました。二行目は一行目との対比を考慮して濁筆を使い大きめの字により変化をつけるようにし、「間近く」は大小の変化を考え変体がないで表し、一・二行目で並んだ「く」を雰囲気を変えた表現にしたのですが、書く方により表現法はいくらでもありますから各自で工夫されるのも勉強の一つです。最後は墨継ぎのあと遠くから聞こえる音を意識して静かに収めました。少しづつでも仮名の条幅に挑戦する方が増えればいいなと思います。

島木赤彦

(一八七六～一九二六)

長野県上諏訪町に生まれる。伊藤左千夫に師事。大正3年上京してアララギ派の中心的歌人として雑誌「アララギ」の編集にたずさわり、大正4年2月号より編集発行人、指導者として発展に尽力する。中村憲吉との合著第一歌集「馬鈴薯の花」を出版。「太虚集」「氷魚(ひを)」などがある。この歌は「氷魚」の中にある歌である。

予告 昇試第一部かな(九月二十二日締切)

おしなべて思ひしことのかずくになほ色まさる秋の夕暮(新古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条 幅 部 随 意 参 考

高橋紫芳先生書

披襟入坐雄風滿 把酒論詩畏日斜（汪道昆）  
襟を披き坐に入る雄風満ち、酒を把って詩を論ずれば畏日斜なり。

披襟入坐雄風滿 把酒論詩畏日斜

高橋紫芳

訳：衣の襟を披いて涼しい風を座に引き入れて満ちし、酒を手にして詩談をすれば夏の日が傾いた。

絹村光豊先生書

此あたり目に見ゆるものは皆涼し（芭蕉）  
こ能あたり目に三遊る毛のはみ奈涼し

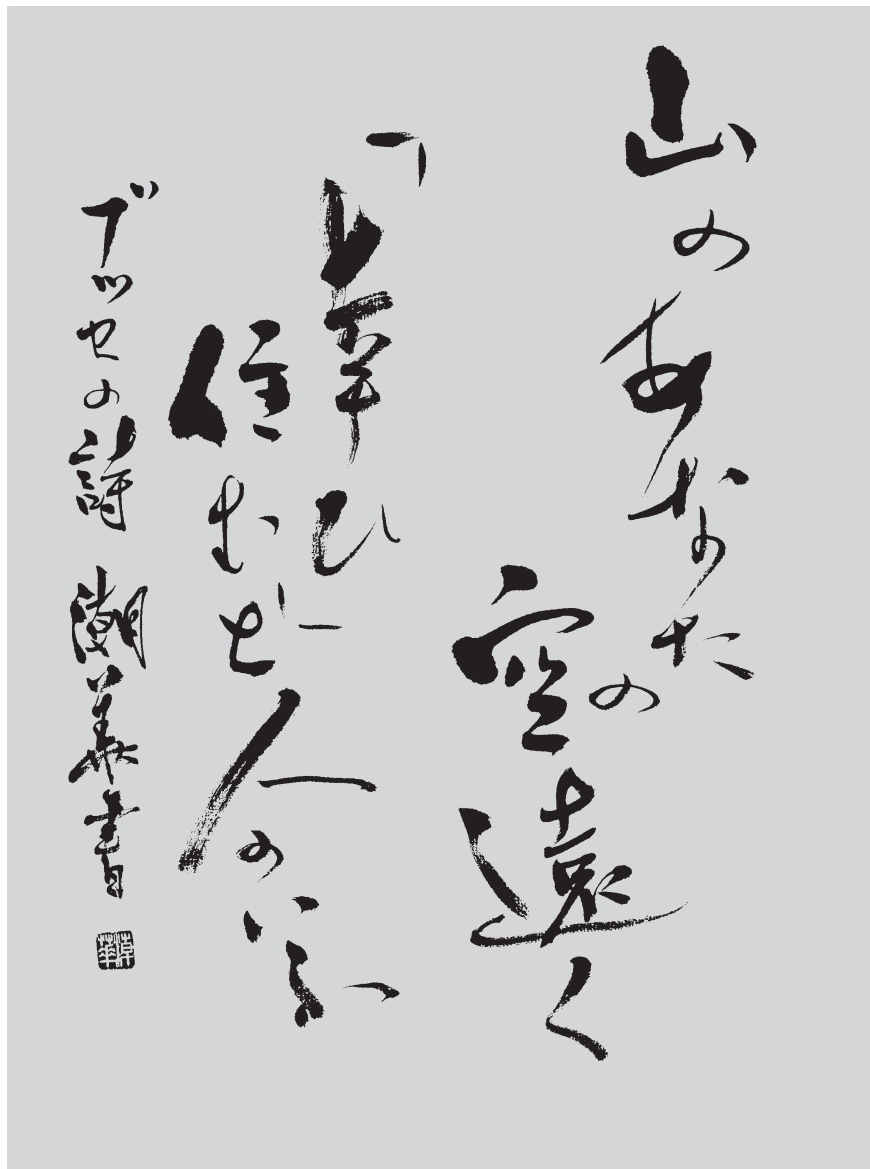
こ能あたり目に見ゆるものは皆涼し

光豊

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）



水貝潮華先生書



山のあなたの空遠く  
「幸ひ」住むと人のいふ  
カール・ブッセ作、上田敏訳

○皆さんもよくご存知な、中学校の教科書に掲載されている詩の一部です。口ずさみながら書いてみましょう。  
○今回の詩の中に、「」が使われています。「」も活字のようではなく、作品の中に自然と融け込み、「」を入れることにより、作品としての効果がアップするような表現にしたいものです。

カール・ブッセ

(1872—1918)

ドイツの叙情詩人

上田 敏 (明治7

〜大正5 1874—1916)

東京都生まれ。英

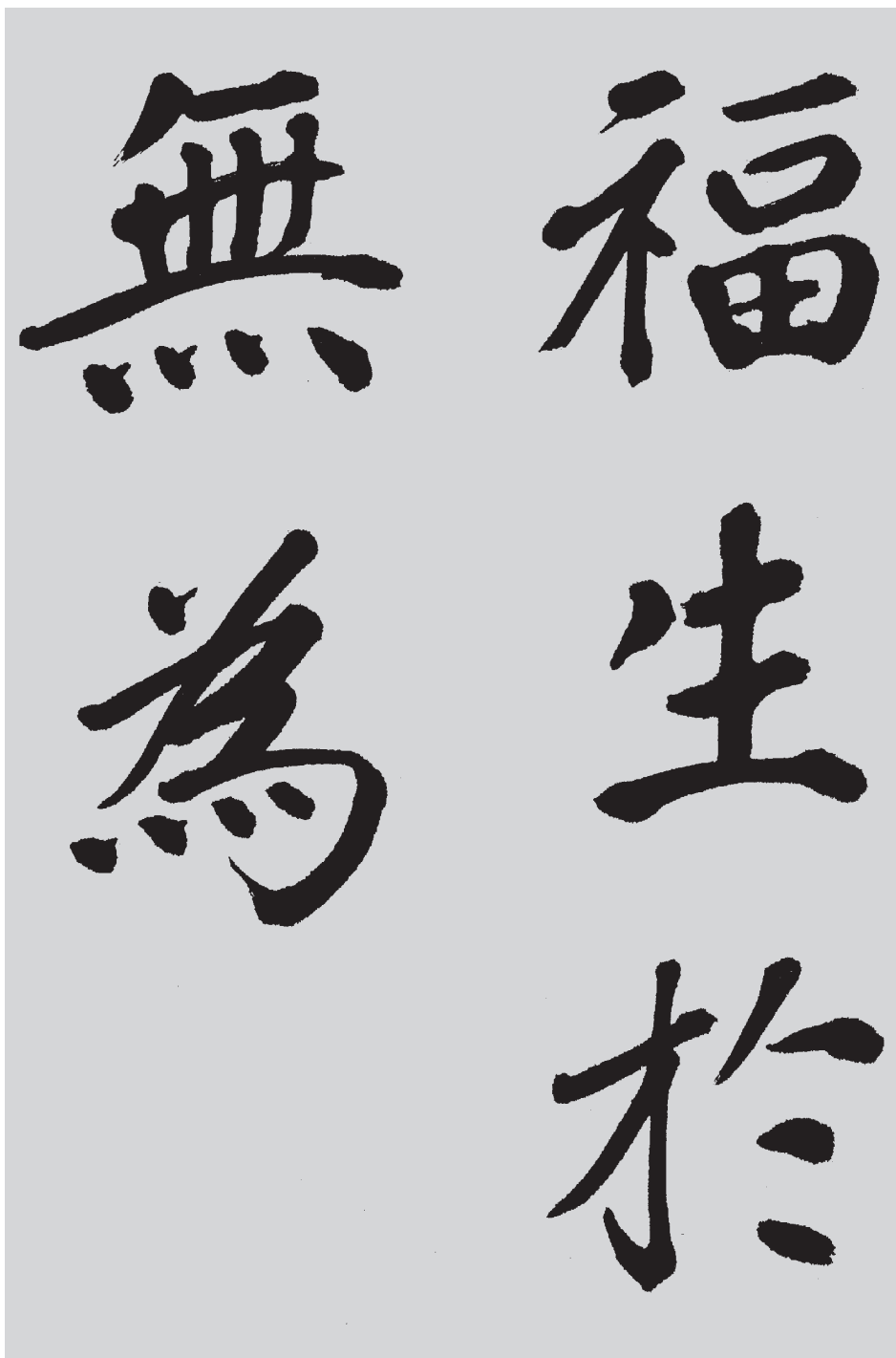
仏文学者・評論家。

訳詩集に「海潮音」

などがある。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

福は無為より生ず（淮南子）

訳…幸福とは欲望を持たない淡泊無為から生まれる。

〈画数が少ない右行〉

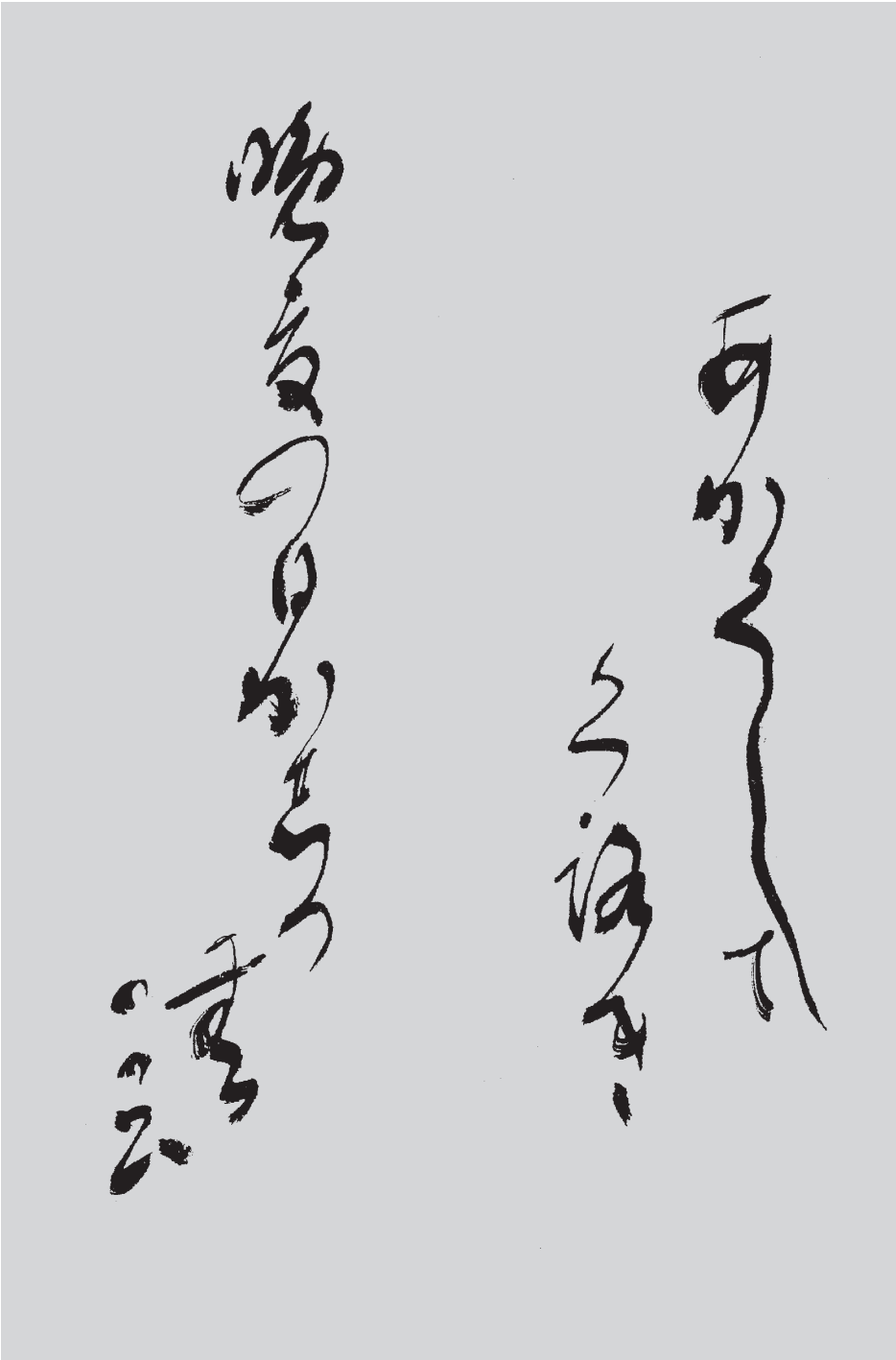
右行の「生於」は他三字に比べ画数が少なく、不釣合いになり易い。こんな場合は、線が単調にならぬよう配慮して下さい。「生」は小さくてもドッシリと、「於」は傍の分間、線のきびしさに注意して調和を図ってください。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

あかくして黒き晩夏の日が沈む(誓子)  
あかくして久路き晩夏の日か志つ無



〈部分練習から快筆作へ〉  
変体がなは五ヶ所で使われているが、筆線は明快な華雪流。現代調を味わってほしい。右群の「久し」を強調、「し」がポイント。線の引き緊まりが肝要。「久路き」太細の配合に注目すること。「き」末画は軽くぬく。「夏」草体、一画目の点は、連綿の中で筆を一瞬置く感じ。「か、つ」への入筆は逆入的。この「無」を活かしてほしい、効果的に。

予告 昇試第一部かな(九月二十二日締切)

おきべより風かよふらしたえまなくをすも波立つ磯のたかどの

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

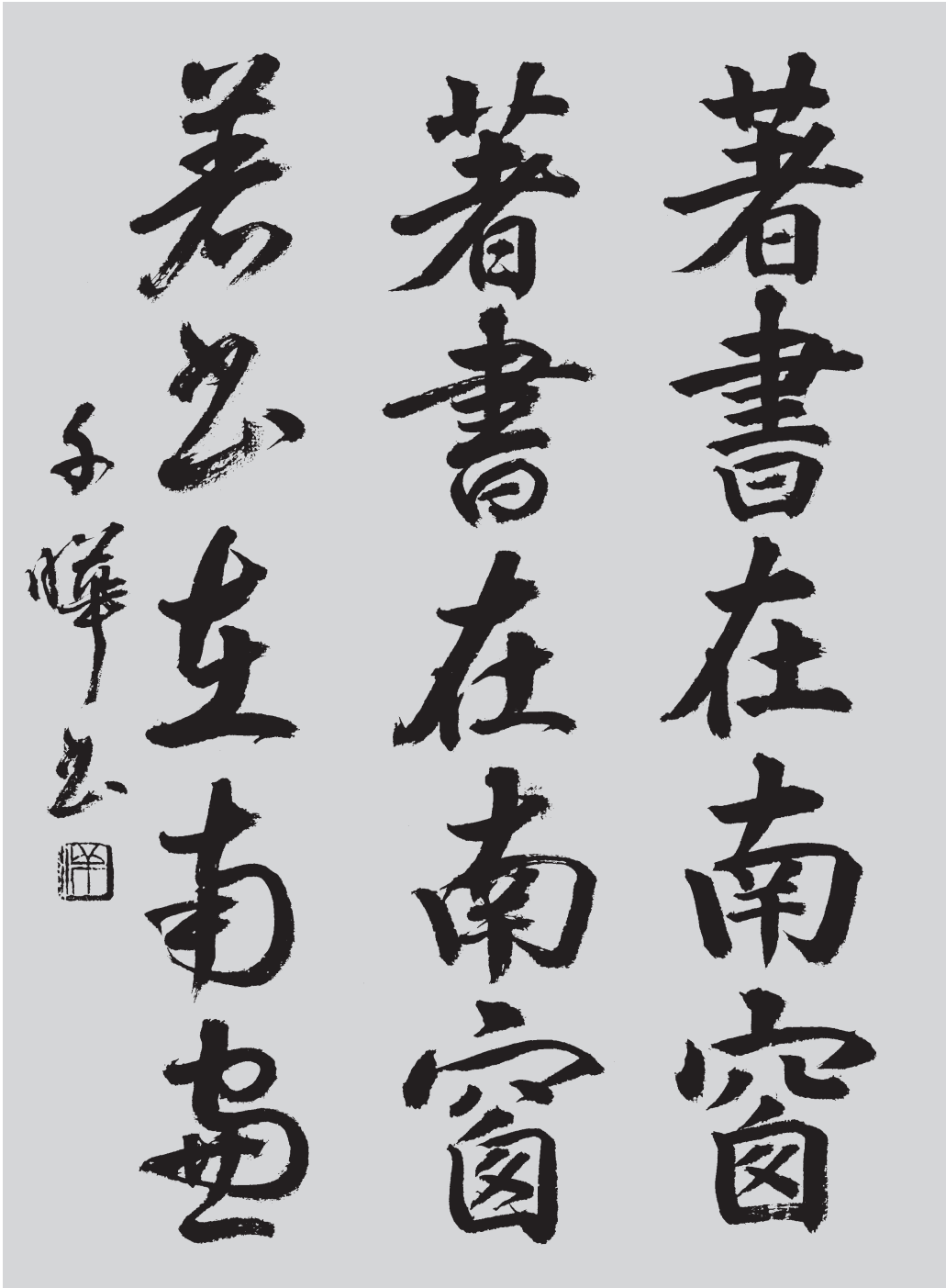
①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。



路川千曄先生書

著書在南窗（儲光羲）  
書を著すは南窓に在り。

訳：著書が南の窓にある。



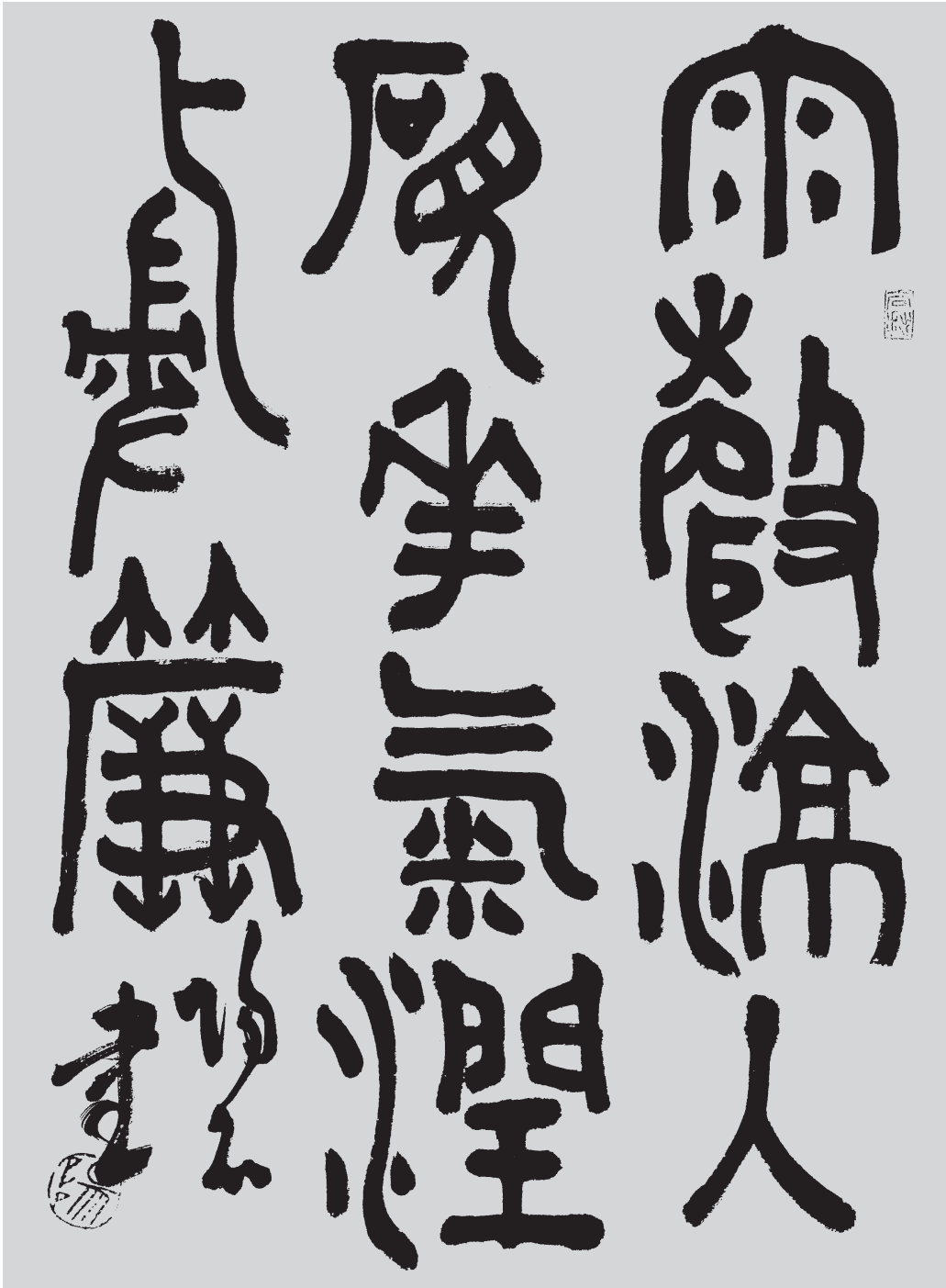
予告 昇試第一部漢字（九月二十二日締切）

湖光朝霽後（白居易）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

難波陽石先生書

雨聲涼入硯 花氣潤侵簾（申笏山）  
雨声涼硯に入り、花氣潤い簾を侵す。

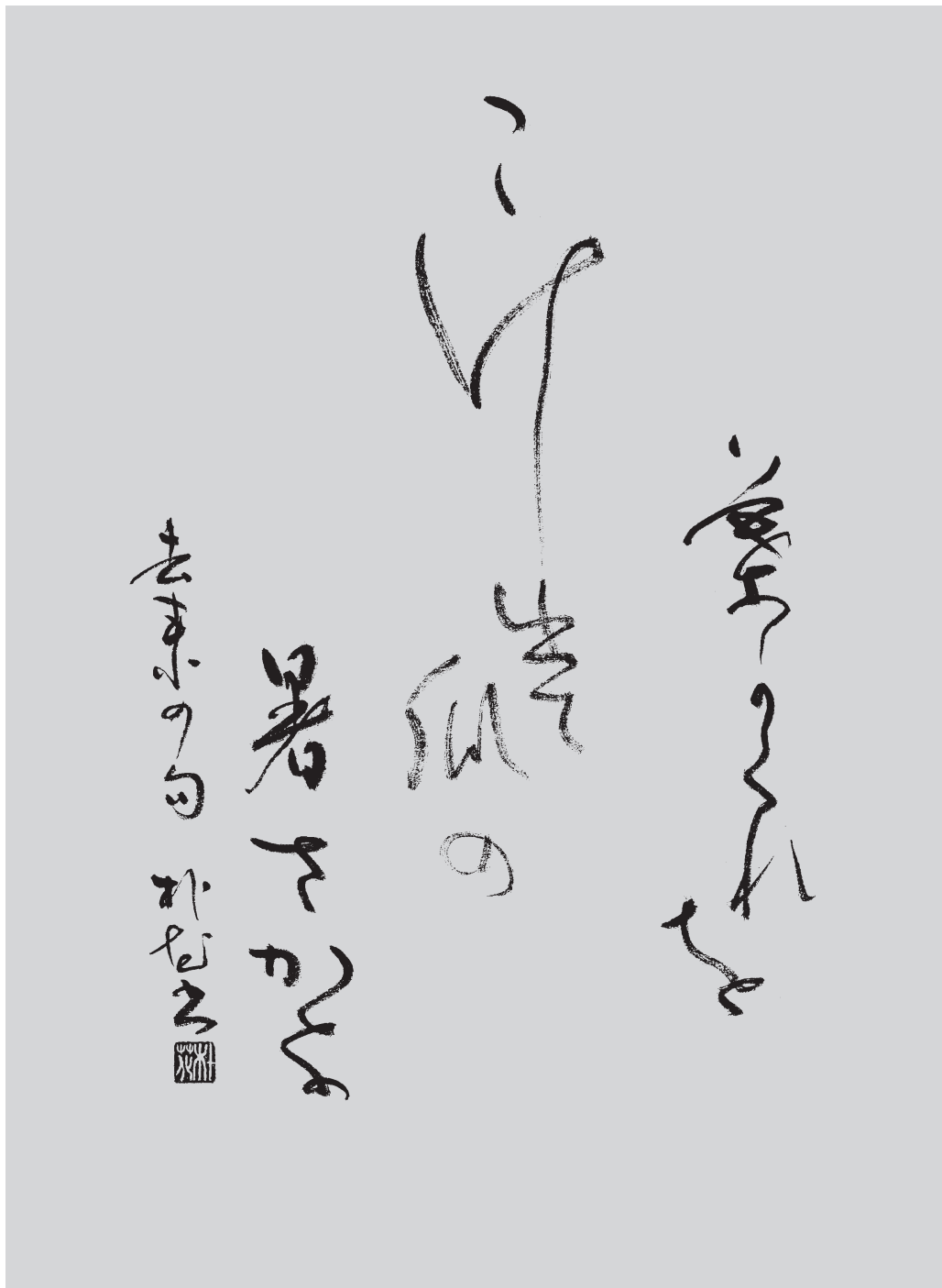


訳：雨声ばかり聞いても心地よく、涼気は硯に吹き入った。そうして花の香りはしめって簾にとおるのであった。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

向山朴花先生書

葉がくれをこけ出て瓜の暑さ哉（去来）  
葉可久れをこ計出て瓜の暑さか奈



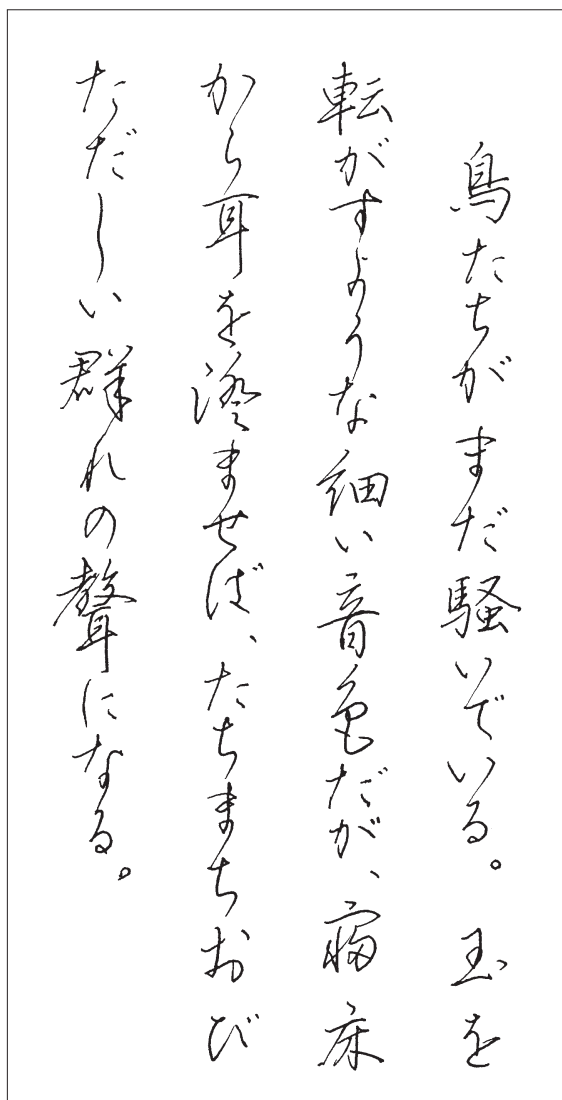
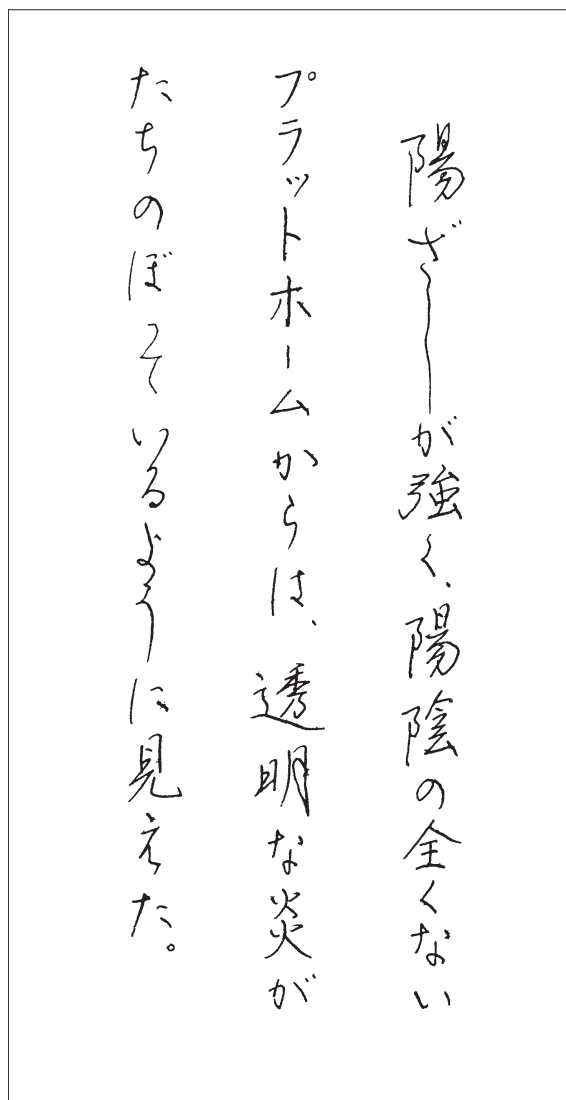
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

鳥たちがまだ騒いでいる。玉を転がすような細い音色だが、病床から耳を澄ませば、たちまちおびただしい群れの声になる。

「夜明けの家」  
古井由吉

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

陽ざしが強く、陽陰の全くないプラットホームからは、透明な炎がたちのぼ〜るよう〜に見えた。

「うちうみ」  
瀬戸内晴美